

故郷

作詞 高野辰之  
作曲 岡野貞一

一  
兎追いしかの山

こぶなつ  
小鮒釣りしかの川

ゆめ  
夢は今もめぐりて

わす  
忘れがたき故郷

二  
如何にいます父母

つつが  
恙なしや友がき

あめ  
雨に風につけても

おも  
思い出ずる故郷

三

こころ  
志をはたして

ひ  
いつの日にか帰らん

やま  
山は青き故郷

みず  
水は清き故郷

朧月夜

作詞 高野辰之  
作曲 岡野貞一

(前奏あり)

一  
菜の花畠に 入日薄れ

み  
見わたす山の端 霞ふかし

はるかぜ  
春風そよ吹く 空を見れば

ゆうづき  
夕月かかりて 匂い淡し

二

さと  
里わの火影も 森の色も

たなか  
田中の小路を たどる人も

かわず  
蛙の鳴くねも 鐘の音も

かさ  
さながら霞める 朧月夜

紅葉

作詞 高野辰之  
作曲 岡野貞一

一

あき  
秋の夕日に照る山紅葉

こ  
濃いも薄いも数ある中に

まつ  
松を色どる 楓や蔦は

やま  
山のふもとの裾模様

二

たに  
溪の流れに散り浮く紅葉

なみ  
波にゆられて離れて寄って

あか  
赤や黄色の色様々に

みず  
水の上にも織る錦

花 はな

(前奏あり)

作詞 武島羽衣  
作曲 瀧廉太郎

一  
春のうららの隅田川 はる すみだかわ

のぼりくだりの船人が ふなびと  
權のしづくも花と散る はな ち  
眺めを何に喩うべき なが なに たと

二  
見ずやあけぼの露浴びて みず やあけぼの つゆ

われにも言う桜木を い さくらぎ  
見ずや夕ぐれ手をのべて みず やゆう て  
われさしまねく青柳を あおやなぎ

三  
錦織りなす長堤に にしきお ちようてい

暮るればのぼるおぼろ月 く ゼるればのぼるおぼろつき  
げに一刻も千金の いっごく せんぎん  
眺めを何に喩うべき なが なに たと

荒城の月 こうじょう つき

作詞 土井晩翠  
作曲 瀧廉太郎

一  
春高樓の花の宴 はるこうろう はな えん

巡る盃 かげさして めぐ さかずき  
千代の松が枝わけ出でし ちよまつ え  
昔の光 いまいざこ むかし ひかり

二  
秋陣営の霜の色 あきじんえい しもいろ

鳴きゆく雁の数見せて なき ゆくかり かずみ  
植うる剣に照りそいし う つるぎ て  
昔の光 いまいざこ むかし ひかり

三  
いま荒城の夜半の月 いまこうじょう よわつき

替らぬ光誰がためぞ かわ ひかりた  
垣に残るはただ葛 かき のこ かずら  
松に歌うはただ嵐 まつ うた あらし

四

天上影は替らねど てんじょうかげ かわ  
栄枯は移る世の姿 えいこ うつ よ すがた  
写さんとてか今もなお うつ さんとてかいま  
嗚呼荒城の夜半の月 ああこうじょう よわつき

はる き  
春が来た

作詞 高野辰之

作曲 岡野貞一

(前奏あり)

一 春が来た 春が来た どこに来た  
はる き はる き どこに き

山に来た 里に来た 野にも来た  
やま き さと き の き

二 花がさく 花がさく どこにさく  
はな はな どこに き

山にさく 里にさく 野にもさく  
やま さと の き

三 鳥がなく 鳥がなく どこでなく  
とり とり どこで き

山でなく 里でなく 野でもなく  
やま さと の き

あか  
赤とんぼ

作詞 三木露風

作曲 山田耕作

(前奏あり)

一 夕焼小焼の 赤とんぼ  
ゆうやけこやけ あか

負われて見たのは いつの日か  
お み は ひ

二 山の畑の 桑の実を  
やま はたけ くわ み

小籠に摘んだは まぼろしか  
こかご つ まぼろしか

三 十五で姐やは 嫁に行き  
じゅうご ねえ よめ ゆ

お里のたよりも 絶えはてた  
さと た 絶えはてた

四 夕焼小焼の 赤とんぼ  
ゆうやけこやけ あか

とまっているよ 竿の先  
まわっているよ さおのさき

あお とおと  
仰げば尊し

文部省唱歌

(前奏あり)

一 仰げば尊し わが師の恩  
あお とおと わがしのおん

教えの庭にも はや幾年  
おし にわ はやいくとせ

思えば いと疾し この年月  
おもえば いとと 疾し このとしつき

今こそ別れめ いざさらば  
いま わか いざさらば

二 互いに 睦し 日頃の恩  
たが 互いに 睦し 日頃の恩

別るる後にも やよ忘るな  
わか 別るる後にも やよわす

身を立て 名をあげ やよ励めよ  
み たて なをあげ やよはげ

今こそ別れめ いざさらば  
いま わか いざさらば

三 朝夕馴にし 学びの窓  
あさゆうなれ まな まど

蛍の灯火 積む白雪  
ほたる ともしび つく しろゆき

忘るる間ぞなき ゆく年月  
わす 忘るる間ぞなき ゆくとしつき

今こそ別れめ いざさらば  
いま わか いざさらば